

研究の経過と概要

1 東山梨地区 福祉教育研究部会のとりのくみ

本地区の福祉教育研究部会は、『学校教育における福祉教育のあり方』を研究主題に設定し、「福祉教育」をどのように扱い、子どもたちに何を学ばせるか、理論研究、福祉施設の見学、実践授業を通して研究を進めてきた。

福祉教育というと、障害者や高齢者について福祉講話で話をうかがう、調べたり体験したりする、交流するなどの実践が行われてきた。数年前より、教科や領域にとらわれず、「ともに生きる」ということを基調とし、授業実践してきた。

※ 過去の研究内容

2008 年度；各校の福祉教育の実践報告

研究授業 菱山小：耳の不自由な人の生活について【総合】

牧一小：笛吹荘のお年寄りと交流しよう【総合】

学習会 「福祉と福祉教育のあり方」山梨市社会福祉協議会 小林先生

2009 年度；各校の福祉教育の実践報告

研究授業 塩山北小：つくろう！ハッピーライフ【総合】

塩山南小：あなたのためになったことがうれしい 資料『うれしい朝』【道徳】

学習会 「小学校における福祉教育のすすめ方」

義務教育課指導主事 深澤先生

2010 年度；各校の福祉教育の実践報告

研究授業 日下部小：聴覚障害について考えよう【総合】

松里小：お年寄りも幸せに暮らせる社会について考えよう

～自分たちにできることとは？～【道徳】

施設見学 山梨市 そだち園

2011 年度；各校の福祉教育の実践報告

研究授業 松里小：「お年寄りとよりよい交流をしよう」 6年【総合】

玉宮小：「思いやる心を伝えよう」 3年【道徳】

施設見学 山梨市・甲州市 ハロハロー番館・二番館

2012 年度；各校の福祉教育の実践報告

研究授業 松里小：「レッツ・トライ・ボランティア」 5年【総合】

後屋敷小：相手の気持ちを考えて 資料『こうえんのおにごっこ』2年【道徳】

学習会 「福祉教育にかかわる学習会」

甲州市社会福祉協議会 手塚剛史さん

2013 年度；各校の福祉教育の実践報告

研究授業 三富小：みんないっしょに生きている 4年【総合】

日下部小：「本当のヒーローってなあに。」 1年【道徳】

学習会 「福祉に関わる学習会（点字）」

山梨市社会福祉協議会 平山純子さん

2014 年度；各校の福祉教育の実践報告

研究授業 塩山北小：「ちょボラ」でみんなハッピーに！ 5年【総合】

神金小：「しょうかいゲームをしよう！」 1年【学活】

学習会 「ことばや発達に障害や特性をもつ子どもたちの豊かな
人間性の育成をめざして」 講師 矢崎立美先生

2 今年度の部会研究テーマ 「学校教育における福祉教育のあり方を探る」

3 今年度の部会研究の経過（予定も含めて）

- 5月 8日（水） 役員・研究テーマ・大まかな研究内容等の決定
- 5月20日（水） 実践事例をもとにした学習会
- 6月 3日（水） 研究授業の授業づくり（神金小：三森）
- 8月 3日（月） 研究授業の授業案検討（神金小：三森）
施設見学 甲州市 救護施設「鈴宮寮」
- 8月28日（金） 統一授業研究会（神金小：三森）
- 9月30日（水） 福祉教育実践報告学習会（松里小：飯島・日下部小：塚田）
- 11月25日（水） 福祉教育実践報告学習会（松里小：小河・祝小：三森）
- 1月13日（水） 福祉教育実践報告学習会（祝小：高石・神金小：塩澤）
- 2月 3日（水） 福祉教育実践報告学習会（神金小：廣瀬・奥野田小：広瀬・三富小：藤波）
- 2月10日（水） 成果と課題・来年度に向けて

4 研究の課題

今年度も、教科の枠や「福祉教育と言えば障害者や高齢者理解」という考え方にとらわれず、さまざまな立場の人々と「ともに生きる」思いやりあふれる子どもたちを育成することを基調として研究を進めている。これまでの研究会の中で確認されている課題は、以下の通りである。

- ①福祉講話や体験・交流などを単発で終わらせず、そこで学習した考え方や生き方を、日常生活でも生かしていけるような実践づくりを考えていきたい。
- ②「福祉」のとらえ方について、「ともに生きる」「みんなのしあわせ」のために支え合うという意識を子どもたちがもてるような実践づくりを考えていきたい。
- ③立場の違いはあっても、自他の幸せを願って努力したり夢を追ったりすることは同じである、という意識を子どもたちがもてるような実践づくりを考えていきたい。

これらの点をふまえ、研究部会に所属している部員のそれぞれの学校や個人の実践を参考に授業案づくりが行われ、共通理解のもとで意見交換がなされてきている。

5 研究の仲間

- ◇指導助言者 中村 達也（東雲小学校）
- ◇部会員 藤波 貴（三富小学校） 高石 圭子（祝小学校）
広瀬 美穂（奥野田小学校） 中村 咲（祝小学校）
三森 明美（神金小学校） 飯島 典子（松里小学校）
廣瀬みどり（神金小学校） 小河真由美（松里小学校）
塩澤 美希（神金小学校） 塚田志小美（日下部小学校）
三森 敏彦（祝小学校）

福祉教育研究部会実践報告

○はじめに

本部会では、「ともに生きる」という考えのもと、研究を進めている。子どもたちの発達段階を考えながら、福祉に関わる内容を学習するばかりでなく、ボランティアの意識を高め、日常生活の中で実践できる子どもたちを育てていく本年度の実践を以下に報告する。

第3学年 総合的な学習の時間 指導案

1 単元名

自分にできるボランティアを見つけよう

2 単元の目標

・世の中には助けを必要としている人がいることに気づき、話を聞いたり、交流したりする中で、自分の生き方、考え方を見直し、実践につなげることができる。

3 単元の評価基準

- (1) 問題を見つけ追求する力 自らの課題を設定し、情報を収集し、整理する。
- (2) 自分を見つめる力 自分の行動を決定する。
- (3) 自分から働きかける力 他者や社会に進んで関わる。ともに生きる。

4 単元について

本校では、3年生の総合的な学習の時間に福祉教育が位置づけられている。自分の思いを素直に表現し、すぐに実践しようとするのできる3年生のこの時期に、「誰かのために何かをする喜び」を味わわせることから福祉の心を育ていけると考えた。相手から「ありがとう」の言葉をもらうことで、自分自身も幸せな気持ちになることで、誰かのために何かをしようとする態度を育てていければと思う。

この単元は、世の中に助けを必要としている人がいることに気づき、話を聞いたり、交流したりする中で、自分の生き方、考え方を見直すことにつなげていく学習である。本校の学区内に老人福祉施設があり、自分の祖父母でないお年寄りの方々と交流をすることで、3年生なりにできることを考え、実践できる力を育てたいと考え、本単元を設定した。体の不自由な人の生活にもふれていくことで、「不自由なことはかわいそうなことではない。」ということ、「不自由さをもっている人たちも、不自由な中で懸命に生きていること。」を知り、それが「みんなが幸せになること。」「ともに生きる。」ことへのすばらしさを理解することにつなげていきたい。

また、「ちょっとしたボランティア（ちょボラ）」は、子どもたちにとってすぐに実践できるボランティア活動であるので、友達、家族、地域の方など身近な人のために、日常の生活の中でさりげなくできるよう、学習後も継続して取り組んでいけるようにしたい。

5 児童の実態（男子9名，女子1名 計10名）

本学級の児童は，明るく元気で，どの授業に対しても，意欲的に取り組むことができる。興味があることについては静かに聞くことができるものの，長い時間集中して人の話を聞くことができない子が数名いる。

休み時間になると，友達の行動が気になり，注意をし合う場面がよくあるが，注意する言葉かけの口調が相手を責めるようにきつかったり，注意を素直に受け入れることができず，反対に相手の悪いところを指摘してしまったり，毎日のように些細な問題が生じている。

Q-Uの結果は，学級生活満足群に5名，非承認群に1名，侵害行為認知群に1名，学級生活不満足群に3名とあまりよいといえる学級状態にない。

2年生の時には，生活科「なかよし だいさくせん」の学習で，1年生に学校を案内することを通して，1年生のためにしてあげられることを考え，実践する活動を経験してきている。2年生までの児童会活動の一つとして，募金活動がボランティアだということは，なんとなくわかっているようであるが，貧しい人や国を助けることだと，大きなイメージをもっているようで，身近なところではボランティアはできないと考えている子もいるようである。

6 指導計画（全24時間）

次	時	学習活動
1	1	○家族のため，あるいは人のために自分ができることを考え，夏休み中にチャレンジしてみることを知る。
		○（時間外）夏休み中に各自家庭でチャレンジし，実践したことを「できたよカード」にまとめる。
	2	○夏休み中の「できたよカード」を紹介し合う。
	3 本 時	○世の中には生きていくことがたいへんな人を知り，どんな助けを必要としているか考える。
2	4	○目の不自由な人の生活を考え，その人のためにどんなことができるのか考える。
	5 6	○アイマスク体験をし，目の不自由な人の生活を知る。
	7	○アイマスク体験を振り返り，目の不自由な人のためにできることをまとめる。
3	8	○お年寄りの生活を考えながら，福祉施設を訪問する計画を立てる。

	9	
	10	○福祉施設訪問のための準備，練習を進める。
	11	
	12	
	13	○福祉施設を訪問し，計画してきたことを実行する。
	14	
	15	○訪問を振り返る。
4	16	○ボランティアについてテーマを決め，調べ活動をする。
	17	○テーマに沿って調べ活動を進める。
	18	
	19	
	20	○調べたことの交流会をする。
	21	
5	22	○自分にできるボランティアにはどんなものがあるか考える。
	23	○毎日の学校生活の中でできる「ちょボラ」を実行していく。
	24	○今までの学習を振り返る。

7 本時の学習

(1) 日時 2015年8月28日(金) 5校時 14:00～14:45

(2) 場所 3年教室

(3) 目標 世の中には生きていくことがたいへんな人がいることを知り，どんな助けを必要としているか考えることができる。

(4) 評価規準 生きていくことがたいへんな人が，どんな助けを必要としているか考えようとしている。

(5) 展開

	学習活動・内容	指導上の留意点
問題提示	1 前時の学習を想起する。	・夏休みに取り組んだ「できたよカード」

3分	<p>○「夏休みに挑戦した『できたよカード』を見ながら、自分がやったことを思い出してみましょう。」</p> <p>・「友達が夏休みにやったことは自分にもできそうだな。」</p>	の成果を評価する。
自力解決 10分	<p>2 教師の手話を見て、手話は誰のために必要なのか、どうして必要なのか考える。</p> <p>・「手話は誰のために必要なのでしょうか。」</p> <p>・「ヘレン・ケラーを知っていますか？」</p>	<p>・教師の手話を見せ、手話は誰のために必要なのか、どうして必要なのか考えさせる。</p> <p>・ヘレン・ケラーについて、目が不自由、耳が不自由、言葉が不自由な人であったことを話す。（写真や伝記の本を提示）</p>
集団解決 10分	<p>3 「何と言っているかゲーム」をする。</p> <p>・「声は聞こえなくても、言っていることはよくわかるよ。」</p> <p>・「口の形が似ているから、わからないよ。」</p> <p>・「声が聞こえないとわかりにくいんだね。」</p>	<p>・グループごとに口話ゲームをする。</p> <p>・グループごとに一人ずつちがう問題を出し合い、答えていく。</p> <p>・「ジャム」「ハム」「ガム」など口の形の近い問題を出題させて、聞き取ることの難しさを理解させる。</p> <p>【実際に出した問題】</p> <p>①まめ ②ゆめ ③めがね ④さめ ⑤かめ ⑥かもめ ⑦ハム ⑧ガム ⑨ジャム ⑩サイン</p> <p>・やってみた感想を出し合う。</p>
問いを知る ・ 問いの共有 2分	<p>4 本時の学習課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>世の中にいる生きていくことがたいへんな人が、どんな助けを必要としているか考えてみましょう。</p> </div> <p>・「生きていくことがたいへんって何？」</p>	<p>・「生きていくことがたいへんな人」ということが漠然としていてわかりにくい子もいると思われるので、これからみんな考えていくことを伝える。</p>

価値の共有 15分	5 世の中にいる生きていくことがたいへんな人のために、あなたはどんなことができるでしょうか。 ・「しょうがい者？」 ・「目の不自由な人は、杖を持っている。」 ・「耳の不自由な人は、手話を使う。」 ・「足の不自由な人は、車いすを使っている。」	・「生きていくことがたいへんな人」を考え、子どもたちの発言をもとに具体的にどんな助けができるか考えて、ワークシートに記入していく。 ・考えを発表する。 ・質問や意見を出し合う。
振り返り 5分	6 学習を振り返る。 ・「生きていくことがたいへんな人のために、何かをやってあげたい。」 ・「どんなことができるかな。」	・わかったこと ・そこから考えたこと ・さらに学習したいと思ったこと

(6) 評価

Aの姿	評価規準を達成した姿	Cの児童への手立て
生きていくことがたいへんな人が、どんな助けを必要としているか具体的に考え、ワークシートに書き、発表しようとしている。	生きていくことがたいへんな人が、どんな助けを必要としているか考え、ワークシートに書くことができる。	具体的な場面で、自分ならどんなことができるか考えられるよう支援する。

8 結果

(1) 授業者の反省

- ・「ヘレン・ケラー」について知っている児童がいなかったことは意外であった。
- ・口話ゲーム「何と言っているかゲーム」をするとき、友達が読む問題用紙を読みたくて、用紙をのぞきたくなってしまう児童がいたので、子どもたちの実態を考えながらゲームにとりくませるべきであった。
- ・「生きていくことがたいへんな人」のことを考えるとき、「24時間テレビ愛は地球を救う」の番組を見て、その情報をもとに発言する子もいた。
- ・「生きていくことがたいへんな人」のためにできることを考えるワークシート「こんなことができるよ」にとりくむときに、静かに集中してとりくむことができたが、一つしか書けない子がもっと書けるようにするには、どのような発問、アドバイスがよかったのであろう

か。

(2) 研究協議より

①授業の導入

- ・授業の導入で、前時の振り返りから、指導者の手話、ヘレンケラーの提示、口話ゲームへとテンポよく進めていたことはよかった。
- ・「ヘレン・ケラー」の写真を提示するとき、支援するという意味からサリバン先生と二人一緒の写真を使いたかったという授業者の意図がある。子どもたちが「ヘレン・ケラー」を知らなかったことには驚いたが、「ヘレン・ケラー」の本を提示したとき、子どもたちの反応は大きかった。「また『ヘレン・ケラー』の話をしてあげるね。」と言ったことで、次への意欲につながった。
- ・手話を見せたとき、子どもたちから自然に何を言っているのかつぶやいていた。しかし、そのつぶやきと本当の意味はちがっていたので、インパクトがあったり、手話の難しさを感じ取ったりすることができたのではないだろうか。

②口話ゲーム「何と言っているかゲーム」の様子

【1班】

・経験のなさからか、口話ができない子がいた。どのように説明してあげたらやり方がわかったのだろうか。声がないとわかりにくいことはわかったようだ。

一方の子ばかりを見てしまっていたので、口の形を見ることに注目させたかった。



【2班】

・封筒から問題用紙を出す、ワクワク感があった。「しゃべれない人の気持ちがわかった。」という感想から、ゲームから得るものがあったのではないか。



【3班】

- ・全員が問題を出せてよかった。
- ・難しさからヒントを出してしまっていたので、口形に注目させるとよかった。

- ・大きな口を開けて、わかるように話していた子がいた。
- ・簡単なものと難しいものがあることがわかった。
- ・問題（言葉）の選び方がよかった。

③学習課題の提示について

・「生きていくことがたいへんな人」のためにできることを考えるワークシート「こんなことができるよ」にとりくむときに、静かに集中して書こうとしていたが、書くことよりもどんどん発表する方が得意な子が多いこの学級では、発表にさらに話題を広げることのできる子もいる。本時は、なんとか書こうとする気持ちから、集中して静かにとりくむことができたのではないだろうか。

・書く場面での授業者の支援が的を得てよかった。また、書く場面で、子どもたちの真剣さ、成長を見ることができた。

・夏休みのとりくみについて、前時に全員の活動を発表し合い、それをホワイトボードに掲示してあり、授業の最初の振り返りの場面での取り上げ方が参考になり、書くことにつながった。

・子どもの視点で、大人が気づかないことに気づく子どもたちだったので、どのような手立てをしてあげたら、たくさん意見を引き出せたのだろうか。

・「不自由な人」のとらえ方について、今現在の子どもの状況、大きな目標に向かう入り口として、今日のような切り口でよいととらえ、次第に広く日常に広げていったらよいのではないかと思う。

・「めあて」の提示のタイミングを、本時は少し遅めにもってきたが、きっかけとして、手話やゲームをしたあとで、よかった。

9 本時後の活動について

本時の学習で、耳の不自由な人の生活について考えることができたので、次時は、目の不自由な人の生活について考え、アイマスク体験を行った。

アイマスクをし、目の前がよく見えないことを実感するだけでなく、その人のために、どんな介助ができるのか、またそれをそばで見ている介助がよかったの

こんなことができるよ
3年()

生きていくことがたいへんな人	その人のためにこんなことができるよ。
耳の不自由な人	やさしく話してあげる。
目の不自由な人	手話ややさしく話してあげる。
耳の不自由な人	何と聞いているのか教えてあげる。

こんなことができるよ
3年()

生きていくことがたいへんな人	その人のためにこんなことができるよ。
耳の不自由な人	手話を教える。
目の不自由な人	手をつないで歩かせる。
耳の不自由な人	手話を教える。

かをみていくことを考えて行動させたかったので、3人チームで体験活動をした。体験後、活動を全員で振り返ってみると、「目の前が、見えないことは怖かった。」「どちらに進むのか、方向をわかりやすい言い方で説明した方がいい。」「やさしい言葉かけをした方がいい。」などの感想が出てきた。

また、道徳の授業で、「耳をおいてでかけられますか？」(学研・山梨県版)という資料を用いて、聴導犬のことや、聴導犬を連れた聴覚障害者の気持ちを考える学習をした。その後、手話であいさつを試みることにとりくんだ。たまたま、担任が休日に甲府で盲導犬を連れた女性に出会い、初対面であるのに明るく話しをしたことを子どもたちに話すと、そこから介助犬のことにも話題が広がり、ボランティアに対する意識を高めることができた。

今後、福祉施設を訪問したり、ボランティアについて調べる学習をしたりしていくので、体験したことを振り返りながら、活動にとりくませていきたい。

10 まとめ

3年生という発達段階で、どこまでボランティアの意識が高められるかという不安はあったが、体験活動をしたり、またその活動をみんなで振り返って考えたりすることで、3年生なりの素直な感想、考えを出し合うことができ、学習が深められた。友達に対して、強い口調で注意し合うことの多い学級であるが、この学習を通して、少しずつではあるが、友達に対する接し方が、柔らかくなってきているのではないかと思う。まだ、学習の途中であるので、今後、訪問活動、調べ活動にとりくみ、友達と考えを共有しながら、自分が実践できるボランティアを見つけ出させていきたい。さらに、日常生活の中で、自然にボランティアができる子どもたちを育てていくことができるよう、さらに実践を積み重ねていきたい。



4年生
こんなことができるよ
 3年 ()

私までいくことがたのしみな人は...	その人のためにこんなことができるよ。
--------------------	--------------------

4年生
ふり返しカード
 3年 ()

★こんなことを振り返って、感じたことを書いておきましょう。

8月29日(木)

②お家の人や友達の人について「たいく」で「きてまぐん」とお話ししました。

8月28日(水)

③いろいろな人がたくさんいる(お家)なのので、ささえていきたいです。

4年生
ふり返しカード
 3年 ()

★こんなことを振り返って、感じたことを書いておきましょう。

8月29日(木)

②お家の人やいろいろな人のためにいろいろな仕事をしていたのすこやかです。

8月29日(木)

③手足がつかえない人の気持ちがよくわがなした。これから自分もかかあ自由な人がいたる人のやくにならなたいです。

